発刊によせて

当研究所は、本年、創立十周年の佳節を迎えた。研究所の歩みを振り返ると、その淵源は二〇〇七年十二月、東日本国際大学内に設置された東洋思想研究会にさかのぼる。この研究会は、儒学をはじめとする東洋思想を研究するために設置された。自文化を再確認しつつ他文化を理解し、国際的な対話の世界を構築し、今日の諸問題の解決に寄与することを目的とする集まりであった。

二〇〇七年の七月、その東洋思想研究会に私が招かれ、『法華経』の現代的意義について話をさせていただいた。これがきっかけとなり、二〇〇九年四月、同研究会は発展的に解消され、新たに東洋思想研究所が誕生した。初代所長には、現いわき短期大学学長の田久昌次郎先生が就かれた。

当初は場所や人も定まらず、種々の苦労が絶えなかったが、翌年には専任研究員を置き、研究施設も整い、徐々に研究所の体裁が整った。ところが、そうした矢先に、あの東日本大震災に見舞われたのである。本学は福島第一原発から最も近い場所にある大学であり、震災の物理的な被害に加えて震災後の風評被害等も深刻であった。

幸い、施設については、緑川浩司現理事長を中心に一丸となって奮闘した結果、速やかな復旧がなされた。新一号館が落成されるなど、苦難をむしろチャンスに変える戦いが実を結んだと言える。残るは「心の復興」である。震災後の困難に直面する地域社会に精神の光を届けるべく、当研究所も様々な挑戦を開始した。

二〇一一年以来、当研究所では、思想の力による復興を目指し、中国・韓国・日本の学者や有識者を招いた講演会やシンポジウムを数多く開催している。また、二〇一三年度からは、市民にも開放した全学共通授業の「人間力の育成」講座を開講した。これまで、政財界や芸術界、スポーツ界などの第一線で活躍する方々を講師に招聘し、逆境に打ち克つ「人間力」の素晴らしさを語っていただいた。開講から六年目を迎え、エンジン01文化戦略会議、立教大学社会デザイン研究所、ＮＨＫなどの多様な外部機関とも連携し、年々社会的な広がりを増している。

また、人間力の育成は、建学の理念である儒学を普及する活動によっても進められている。当研究所の研究員が

担当する、いわき市民を対象とした継続的な「論語素読教室」は地域社会に定着した感がある。さらに、本学学生の間で結成された「いわき論語塾」の指導にも、研究所として積極的に取り組んでいる。

「人間力」とは何かを定義するのは非常に難しい。本学では「志を持ってやり抜く力」としている。これは、要するに命の力である。「生命力」と言ってもよい。創造力、利他性、コミュニケーション力など、人間力に該当する力は色々考えられる。だが、それら一切のベースとなるのは生命の力である。学生が本物の人間の生命力に触れ、感化を受ける中で人間力に目覚める。そのような機会を、今後も提供し続けたいと思う。

一般に、研究所は学術活動の場とされている。当研究所も、学術紀要である本誌『研究東洋』を毎年発刊している。その上で、教育や地域社会への貢献にも積極的に取り組み、研究・教育・地域にトータルにかかわる独自のカラーができつつある。

十年の歩みを経て、研究所の基盤は盤石に整えられた。今後は、よき伝統を守りつつも変化を恐れず、所員一同、新たな挑戦を始めてまいりたい。

平成三十一年二月

東日本国際大学
東洋思想研究所所長
松　岡　幹　夫